

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5400m付近で-30°C以下の寒気を伴う寒冷渦が沿海州から日本海北部に東進。後続のトラフがアムール川中流。
- ② 500hPa 5520-5580mの正渦度の影響で、高気圧からの気流が収束する日本海西部に低気圧を解析。また、日本のはるか東に進んだ低気圧による湿った空気が滞留している影響が加わり、関東甲信地方では山沿いを中心にやや強い雨を解析。
- ③ 500hPa 5760m付近の強風軸に対応して大陸から東シナ海に前線がのびている。先島諸島の近海では一時非常に激しい雨を解析。奄美地方の近海にも気圧の谷があり、激しい雨を解析。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 日本付近は29日にかけて、複数の高気圧に緩やかに覆われる所が多い。しかし、解説図で低気圧やシアラインとして示した気圧の谷の周辺では、下層暖湿気と上空寒気の影響で大気の状態が不安定となり、局地的に対流雲が発達する所がある。落雷、突風、急な強い雨に注意。特に、1項①の寒冷渦・トラフに対応した低気圧に向かう南からの気流が東西から収束する北日本、また、日本海と日本の南の高気圧からの気流が収束する東・西日本の地域は対流雲が持続しやすいので注意。
- ② 日本のはるか東に進んだ低気圧や千島の東を北東進した低気圧を波源とするうねりの影響は、徐々に弱まってきているが、引き続き28日の目先は、北～西日本太平洋側では、うねりを伴う高波に注意。
- ③ 先島諸島付近にのびている前線は、次第に高気圧の西側となり大陸東岸を中心に暖気移流が強まり北上する。沖縄地方では引き続き29日にかけて、落雷、突風、急な強い雨に注意。
- ④ 北～西日本では850hPaの気温が平年差+3～+5°C程度の高い状態が続く。北～西日本の多雪地では30日にかけて、なだれに注意。
- ⑤ 30日には、500hPa 5700m付近のトラフが華中に進み、その東側で下層暖気移流が強まって、前線が東シナ海から九州付近までのびてくる。前線付近を中心に大気の状態が非常に不安定となり、西日本では、九州南部を中心に雷を伴う激しい雨が見込まれる。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、強風、高波、落雷、突風に、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量子想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項⑤前線上の低気圧の位置の予想には不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間) : 多い所(100mm以上)はない。
- ② 波浪(明日まで) : 東北・小笠原3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。